



ふくだ
Fukuda

滑川町立福田小学校 学校だより

1月号 令和 4年 1月11日

電話 0493-56-2651 FAX 0493-56-2643

腰塚勇人さんの「5つの誓い」

口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。
目は人のよいところを見るために使おう。
耳は人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。
手足は人を助けるために使おう。
心は人の痛みがわかるために使おう。

紹介した5つの誓いは、腰塚勇人さん(1965ー)という方の「自分との約束」だそうです。なぜこのような誓いを立てたのでしょうか。今日は、腰塚勇人さんのお話をします。

腰塚さんは、大学卒業後、保健体育科の教師として中学校に勤務していました。2002年3月1日、人生を変える大きな出来事がありました。それはスキー中に転倒して「首の骨」を折ったことでした。救急車で運ばれた病院のお医者さんは腰塚さんの奥さんに「一生、寝たきりか、よくて車イスの生活になるでしょう」と告げたそうです。幸い、手術は成功しました。しかし、1週間たっても首から下の「手足」は、まったく動きませんでした。腰塚さんは、毎日、「どうやったら死ねるか…」そればかり考えていたそうです。その時の心境を「本当は生きたかった。でも、『生き方』がわからなかった」と語っています。

自殺まで考えた腰塚さんに多くの人が生きる勇気を与えてくれました。

「何があっても、ずーっと一緒にいるから」(奥さん)

「代われるものなら代わってあげたい」(お母さん)

「先生、待っているから」(同僚や教え子)

腰塚さんは、「一人じゃない」「生きなきゃ」と思えたそうです。そして、「すべてを受け入れて、いつも『笑顔』でいる」「どんなことにも、『ありがとう』を言おう」と決めたそうです。すると…

全く動かなかった手足が動きはじめました。「立ち上がり歩くことのできる喜び」「話すことができる喜び」「文字を書くことができる喜び」腰塚さんは「当たり前」だと思っていたことに、「幸せ」と「感謝」を見つけました。そして事故から4か月後、奇跡的に学校に復帰することができたのです。

腰塚さんは、この体験を通して人生観が大きく変わりました。

「ケガをして入院、リハビリをする中で一番感じたことは、自分の命が生かされ周りの人たちに支えられているということでした。だからこそ、社会復帰するときには『自分の命の使い方』を真剣に考えました。もし、このケガをしなかったら、僕は『命の使い方』なんて考えなかったと思います。実際、ケガをする前は考えていませんでした。なぜなら、命があること、生きていることは、当たり前だったから。でも、命があることも生きていることも当たり前ではないということに気づかされました。そこで決めたこと。それは、『自分と他人の命を傷つけない』ということ、そして、『命の喜ぶ生き方をする』ということでした。それを具体的に行動に移すための自分との約束が、『5つの誓い』です。」

皆さんが「5つの誓い」を意識することで、今まで以上に素敵な福田小学校になると思い、3学期のスタートにあたって、腰塚勇人さんを紹介しました。

(3学期始業式の言葉より)